

りとにゅーす

No. 72 2015.11.1

図書館の情報を
携帯でチェック!!編集・発行 岡山理科大学図書館
〒700-0005 岡山市北区理大町1-1
<http://www.lib.ous.ac.jp>

本を読んで想像豊かに疑似体験を！

副学長 堂田 周治郎



10月2日、理大ホールで劇作家の平田オリザ先生の講演があり、「わかりあえないことから」と題して、理系学生のためのコミュニケーション能力について話をされました。皆さんの中にも講演会に出席し、先生から当てられたり、先生に質問した人もいます。「伝えたい気持ちが強すぎると伝えられない」、「グループで意見を出し合って何かを決めていく場合、良いアイデアを出す人ではなく、異なる意見をうまくまとめ上げていく人が、これからの時代には必要である」といった話が印象に残っています。講演を聞き逃した人は講談社現代新書「わかりあえないことから」を図書館などで見つけて読むと、読みやすい内容でもあり勉強になると思います。

さて、私が大学時代に読んだ小説について紹介します。私は読んだ本が面白いと思ったとき、その作家の本を次々と読んでいくタイプです。司馬遼太郎、山本周五郎、吉村 昭、新田次郎の本はほとんど読んだような気がします。司馬遼太郎の「燃えよ剣」（土方歳三）、「竜馬が行く」、「功名が辻」（山内一豊とその妻）、「国盗り物語」、「関ヶ原」、「最後の将軍」（徳川慶喜）、「殉死」（乃木希典）、「坂の上の雲」（秋山兄弟）、「花神」（大村益次郎）などは印象に残る小説です。私はフィクションより実在の人物を扱った歴史小説が好きです。司馬遼太郎は、関ヶ原の戦いを書くとき、目を閉じるとその日の空模様や空気、足元の草むらなどの情景がありと浮かんでくるようです。あとはそれを描くだけなので400年前の出来事でも「見てきたように書ける」のです。これが作家の才能でしょう。

山本周五郎の文庫本もよく読みました。短編集では江戸の庶民を描いた人情話が多いですが、「樅の木は残った」（原田甲斐）などの歴史小説もあります。山本周五郎の本は好きでしたが俗っぽい感じがして、周りには周五郎ファンであることを伏せていま

た。しかしドラマや映画で頻繁に取り上げられるようになるに気がしなくなりました。第5代学長の山村泰道先生が藤沢周平の大ファンであることを知った時は何故かほっとしました。吉村昭も好きな作家です。彼は時間をかけて綿密に取材し、それに基づいて描くので素晴らしい内容の小説が出来上がります。一番印象に残っているのは「光る壁画」です。これは、世界で初めて内視鏡を開発した医師とカメラ会社の人の物語で実話をもとにしています。最初に読んだ「漂流」は、船が難破して鳥島（伊豆諸島）に漂着し12年間の無人島生活の後、故郷に帰還した船乗りの話で史実に基づいたものです。夜、ワクワクしながら読んだことを思い出します。新田次郎の本で最初に読んだのは「銀嶺の人」（登山家の今井通子）だったと思います。「強力伝」、「孤高の人」、「八甲田山死の彷徨」などの山の物語や「武田信玄」などの歴史小説を読みました。新田次郎は54才頃まで気象庁に勤務していた気象学者であり、知識も豊富でそれが小説によく表われています。彼の次男で数学者である藤原正彦の「国家の品格」も記憶に残る本です。

読書の良いところは、自分の知らなかった世界が疑似体験できることです。実際に山に登らなくても登山の喜びや厳しさが小説から伝わってきます。無人島で生活しなくても様子がわかります。外国に行かなくても行った人やそこに住んでいる人の暮らしぶりがわかります。色んな人の考え方や体験を知ることができ、小説の中の登場人物を自分なりに想像してみることも楽しみの一つです。そして、何よりも面白い本は時間を忘れさせてくれます。ゼミの学生には小説のように読者がワクワクしながら次の頁を早く見たくするような卒論や修論を書こうと言っています。読書の秋です。時間を見つけて、本を見つけて、想像豊かに疑似体験をしましょう。

サマー・スタディ2015

平成27年8月25日(火)、26日(水)に、岡山理科大学21号館3F図書館で、小学生を対象に、サマー・スタディが開催されました。

サマー・スタディは、近隣の小学生の勉強を理大生がサポートすることにより、地域貢献をするとともに理大生に様々な経験をしてもらうことを目的として、今年初めて開催したイベントです。

●参加者 (小学生) : 8/25=11名、8/26=14名

●参加者 (理大生) : 8/25=14名、8/26=14名

※申込者は22名ありましたが、8/25は台風が近づいたため7名の欠席がありました。

主催：岡山理科大学図書館 協力：基礎理学科 山口 一裕 先生

◆◆◆ 会場の風景 ◆◆◆

夏休みの宿題を中心に、小学生を理大生がサポートしながら（直接答えは教えず、考え方などを教えてサポートします）、ドリル・作文・自由研究などが、行われました。



自由研究を行っています。



昼休みは、皆でお弁当を食べました。



時々、ティータイムを挟んで、休憩します。

自由研究の実験も行いました。

実験前



実験後



何かが変わっていますね。それは何故かを、小学生は考えてまとめます。



感想

小学生も先生役の理大生も楽しそうに勉強していました。

2日とも参加した小学生は、先生役の大学生とも顔なじみになり、2日目は早速昨日の先生の所に行って勉強を始めていました。

作文のサポートには先生も苦勞していたようですが、何とか書きあがったようです。

●保護者の方の感想

- ・とても楽しかったようです。
- ・親と一緒に勉強しているときは5分ともたないのに、よく面倒をみてもらっているのか、ずっとまじめに勉強しているので、驚きました。
- ・来年もまた来させます。

●理大生の感想

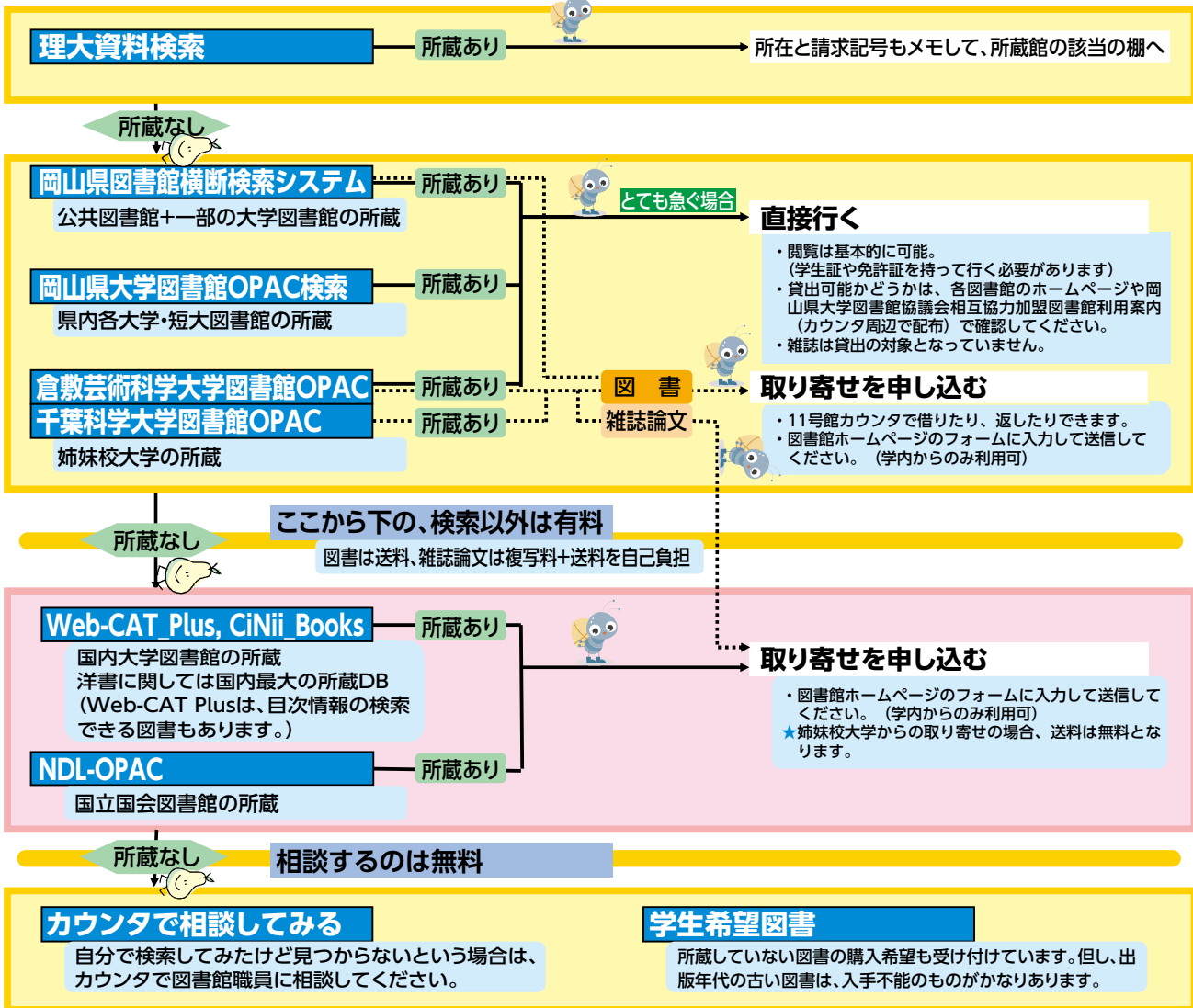
今回サマー・スタディという企画で、小学生と夏休みの勉強をしました。子ども自身がやりたい宿題や工作のテーマを持ってきて、大学生の先生と一緒に考えたり教えたりしました。計算ドリルなどの宿題は、大学生にとっては当たり前である計算を、答えを教えずに考え方を教える難しさがありました。自由研究などは、小学生向けの実験が多く載っている本を図書館で用意してくれていたため、その中から子どもの興味にあったものを探して実際にやってみて、まとめ方のアドバイスもしました。

また、理科大学ということで自由研究の結果から得られた疑問を先生にぶつけてくれる子どもがいました。小学生にわかるようにかみ砕いて話そうとしたのはよかったのですが、つい先生が調べて答えを教えてしまう形になってしまいました。疑問の答えに近づくヒントを与えるような接し方にすれば子どもの力をさらに伸ばせるだろうと思います。この小学生の疑問をもとに、大学生も新しい知識を得られて有意義でした。

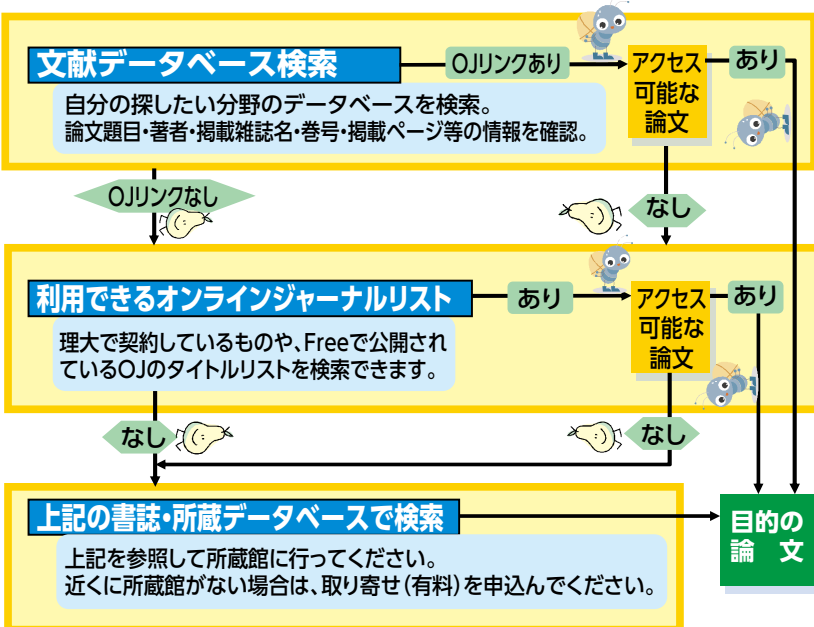
子どもも先生もどちらも成長できる機会なので、今後参加者がさらに増えていけばいいと思います。

(基礎理学科4年・河野裕宇)

図書や雑誌の探し方



雑誌論文の探し方



上記に記載されている検索システムは、書誌・所蔵データベースです。検索対象となるデータは、図書・雑誌のタイトルあるいは件名(内容を示すキーワード)です。

雑誌の論文を探す場合には、文献データベースで検索する必要があります。文献情報が見つかった場合には、まずオンラインジャーナルで理大からアクセス可能か(データベースの検索結果画面にオンラインジャーナル(OJ)へのリンクが有る場合もあります。ない場合は理大から利用できるオンラインジャーナルリストを利用してください。とりあえずアクセスしてみて論文自体まで表示されればアクセス可能といえます)を確認し、アクセスできない場合には論文が掲載されている雑誌のタイトルから、上記の書誌・所蔵データベースで所蔵館を調べてください。

全分野を網羅的にカバーする文献データベースは存在しません。理大から利用できるデータベースは、図書館ホームページにリンクされている「外部データベース検索」のページにまとめてあります。国内の文献については、国立国会図書館の作成している雑誌記事索引がもっとも網羅的な文献データベースといえますが、このデータは国立情報学研究所の作成しているCiNiiにも収録されていますので(多少タイムラグはありますが)、現時点ではCiNiiが最も使い勝手のよい文献データベースといえるかもしれません。